

## 第2回 瑞穂町自立支援協議会会議録

(要点筆記)

日程：令和8年3月17日（火）

時間：午前11時から午後0時まで

場所：町民会館 第2会議室

出席者：谷口委員、中里委員、隅河内委員、堀之内委員、戸村委員、宮岡委員、野邊委員、石藏委員、  
平沼委員、若松委員、利根川委員、畠澤委員 計12名

欠席者：橋本委員、杉浦委員、芳井委員

事務局：青木課長、吉岡係長、澤辺主任

傍聴者：中川さくら氏（西多摩保健所）、五十嵐大祐氏（ハローワーク青梅）

議題 1 各部会からの報告

2 障害児等タイムケア事業終了に伴う空きスペースの活用について

3 障害者計画の進捗状況について

配布資料

①会議次第（A4 1枚）

②自立支援協議会委員名簿（A4 1枚）

③瑞穂の福祉 令和8年度 障がい者版の事業所マップについて

④障害者計画の進捗状況について

開会

事務局・課長挨拶

### 1 議題

#### 1 各部会からの報告

生活部会

・事業所マップの改変について

→主な変更点は受け入れの定員数を明記したこと。

・生活介護の利用できる場が少ない

→瑞穂町の障がい者を受け入れる器、資源が少ない。

・年齢層によって相談窓口が異なるため、わかりにくいとの指摘あり。

就労部

・庁内実習の報告（午前10時から午後5時まで図書館で行った）

→参加者は3名で、うち2名は就労未経験者。参加者からは良い経験ができたとの声あり。

・来年度は部会で挙げた意見を参考に庁内実習を行う。

・役場のスペースやOHAKOを借りて、作業作品の販売を行うことを検討していく。

## 質疑・その他意見

- ・瑞学園は入所施設も兼ねており、130 名となっているが、町内の生活介護はわーくあっぷのみとなる。
- ・相談窓口がわかりにくいとの意見は基幹相談支援事業所の PR が弱いのではないか。
- ・フラワープラムが子ども食堂、役場ではおひさまキッチンを行って居場所づくりを行っている。
- ・障害のある方の就労へのステップアップと、役場職員に対する障害啓発を促す意味もある。
- ・瑞穂町の法定雇用率を共有したい。
- ・庁内実習で携わった方、役場職員の声もお伺いし、自立支援協議会にフィードバックしてほしい。
- ・雇用の担当部署や他部署にも、庁内実習の情報を共有しているか

## 2 障害児等タイムケア事業の終了に伴う空きスペースの活用について

### あゆみ

- ・タイムケア事業について、保護者のご理解・ご協力のもと、3 月末で終了する目途がついた。
- ・あゆみで計画相談支援事業を新規で立ち上げる予定。なお、令和 10 年度を目途に考えている。
- ・あゆみの地域活動支援事業の利用者は 10 名いる。  
(内訳：車いすの利用者は 5 名。知的かつ行動障害のある利用者は 5 名。)
- ・車いすの利用者は 1 階、2 階のスペースでは知的・行動障害の利用者が使えるように検討したい。

## 質疑・その他意見

- ・さくらの利用ができなくなった方をあゆみに移行できるようにしてほしい。
- ・地域活動支援事業の利用者の特性によって、居場所を分けることは良いこと。
- ・18 歳未満に特化した日中一時支援事業所を行ってほしい。
- ・あゆみの地域活動支援は生活介護の事業所の補完という認識がある。
- ・障害者の計画相談事業者は見つかるが、障害児の計画相談事業所が見つからない。  
→あゆみには是非、障害児の計画相談を併設してほしい。
- ・羽村特支の卒業生の進路はほぼ生活介護を希望している。計画相談支援事業所が障害児のみの事業所が多いため、障害児と障害者の両方を引き受けていただける計画相談支援事業を開設してほしい。
- ・地域区分の変更に伴い、事業所が数年前に比べて増加している。

## 3 障害者計画の進捗状況について

### 事務局

- ・評価シートの番号についての補足説明。
- ・評価方法は、担当部署の自己評価となっている。

## 質疑・その他意見

- ・評価シートに基準等の説明を明記してほしい。
- ・P22-23 の数値の差異があり、これは役場内の認識の差が大きく顕れているのではないか。
- ・地域拠点コーディネーターを中心として、社会資源を活用していく。  
→先行事業所の状況を把握し、勉強会を行う予定。運用方法等は、来年度以降検討する。